



岐阜県高山市荘川町国道一五六号線沿いに二本の桜があります。ごく淡いピンク色の花弁とごつごつした幹が特徴で、樹高二〇メートル、目通り幹囲約六メートル、市の誇りでもある樹齢五百年の『荘川桜』を紹介いたします。

この荘川桜は、元々現在の場所にあったわけではありません。現在、御母衣<sup>みぼろ</sup>ダムがある場所には、以前荘川村中野という地区があり、戦後の復興の真最中であつた一九五二年に、電力需要の増大を見越してダム建設が発表されました。当初村民は反対の意志を示していましたが、電源開発初代総裁高碓達之助氏が、住民と水没予定地の村を何度も訪れ、ダムの必要性を熱心に説明し、理解を求めるとともに誠意ある対応を行い、

八年近くに及ぶ反対運動は終結しました。村民と高碓氏が村内を見て回った時、光輪寺と照蓮寺にあった桜をこの水没から救いたいと考え、移植が行われました。移植作業は、桜が巨木かつ老齢であることから、桜は外傷に弱い樹種であることから困難を極め、四十日間もかかったそうです。



旧荘川村光輪寺から移植

しかし、移植した次の春には、花が咲き、桜のあつたふるさと荘川村に因んで「荘川桜」と名付けられました。

この奇跡の荘川桜は、県の天然

記念物に指定されており、例年四月下旬から五月上旬にかけて咲き誇り、期間中はライトアップされ、年間、五万人の観光客が訪れます。



ライトアップされた荘川桜

また、訪れるタイミングもありますが、雪解けの始まる前や夏の渇水の時など御母衣ダムの水位が下がった時には、荘川村が姿を現し、荘川桜を引っ張りあげたレーンや照蓮寺の跡が見えるかもしれません。

荘川桜は、「自然の大切さ」、「物への愛情」、「命の尊さ」を改めて教えてくれる市の大切な宝物です。



観光客で賑わう荘川桜

◆荘川桜へのアクセス  
【タクシー】  
JR高山本線「高山駅」からタクシーで一時間十五分

【自動車】  
東海北陸自動車道荘川ICから国道一五八号を經由し、国道一五六号を白川郷方面へ車で十五分

